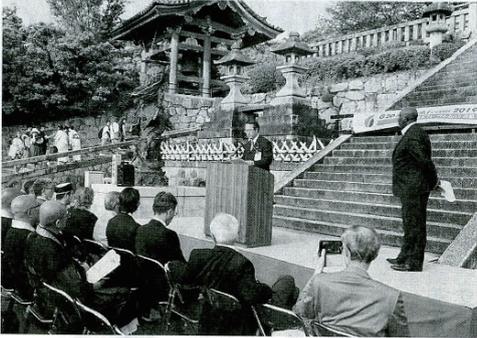


宣言文を読み上げる上杉千文・伊奈波神社宮司



「地球的視野で協調を」

京都で諸宗教フォーラム

G20サミット前に提言

6月末に大阪で開かれ、20カ国・地域(G20)首脳会議の前に国内外の宗教者が環境、貧困、人権等の世界的課題を話し合う「G20諸宗教フォーラム2019」が11、12日に京都市内であった。議論の成果として「京都宣言」を採択し、「いのち」を謳歌できる世界の建設へ、国益第一主義ではなく、地球的視野で正しい指導力を発揮するよう、G20首脳らに要望した。

同フォーラム2019京都実行委員会が主催。「経済格差による貧困問題の恒常化、気候変動の悪化、苛烈なヒジネス競争が招く人権侵害、急速に発展する生命科学や人工知能技術がもたらす危険性などの課題を提示し、日本政府を通じてG20サミットに提言」(瀬川大秀会長)するのが狙い。

日本と米、イスラエル、サウジアラビアなど16カ国から仏教、キリスト教、イスラム教など約120人の宗教者が参加し、「気候変動」「AIの脅威と人間の責任」「生命科学と宗教」「少子高齢化問題」「格差社会と貧困」等の8テーマを各分科会で討議した。

気候変動問題では、パリ協定が2度未満とする世界の平均気温上昇を1.5度以下に抑えることを目指す京都市の取り組みを支持。二酸化炭素排出に課金する「世界的なカーボンプライシング」の検討を求めた。

宣言では国益第一主義の行き着く先は「国家間の対立と衝突」だとし、「寛容と相互尊重の立場で協調路線を取る」というG20首脳らに望んだ。

宣言文は大本山清水寺(同市東山区)で発表され、日本語と英語で読み上げて参拝者らに成果を発信。芳村正徳・組織委員長は「議論の中でより相互理解が深まった。全人類の幸せのために我々は歩み続ける。決して諦めない」と閉会の言葉を述べた。三宅善信・運営委員長は「2日間充実した議論ができた」として宣言文を14日、首相官邸に届けた。

G20諸宗教フォーラムは、首脳会議開催国で毎年行われており、来年はサウジアラビアの首都リヤドで開かれる。

(飯川道弘)